

【卒業生の声】



佐藤 裕介 さん 平成22年卒業

【卒業学科】工学部数理工学科  
【勤務先】熊本県立牛深高等学校(熊本県公立高校教諭)

..... やりがいエピソード

私は現在、熊本県で高校数学の教員として日々充実した生活を送っています。生徒と接する中で大変なこと、辛いことも多くありますが、生徒の成長を感じたときや夢を叶えたときには何にも代えがたい達成感や喜びがあります。数理工学科では数学を中心に、他学科の科目を含め様々な分野を学びます。生徒を多面的に指導し、創造力を育成することが求められる昨今の教育現場において、数理工学科で培った多方面に渡る学習は、生徒の進路指導などにとても役立っています。好きな数学を大学で思う存分学習し、現在も仕事に生かしている自分はとても幸せです。

..... 後輩にメッセージ

大学生活は、今後を生きていく上で様々なことを学べる最後の場所だといえると思います。勉強もサークル活動もアルバイトも、社会に出れば二度と経験できないかけがえのないものです。多くの経験は人間性を磨き、コミュニケーションの大きなツールとなります。社会に出て、ふと大学生活を振り返った時に「あの時これをやっていれば」と後悔しないような日々を過ごしてください。そして多くの友人を作ってください。人との繋がりが重要となる現代社会において、共に学習に切磋琢磨した大学の友人は様々な面で頼り、頼られる存在です。多くの人との出逢いを大切に、悔いのない大学生活を送ってください。

【在校生の声】



アルバート大学語学・文化研修セミナー

一回りも二回りも  
成長できた留学体験

田下 依莉花さん 機械システム工学科2年

私はもともと英語が苦手でしたが、留学には興味があったので、1か月間のアルバート大学語学研修にとりあえず参加してみました。日頃英語に触れる機会が少なかった私は、会話の仕方もあるさつ返答もわからず、初めの頃は毎日落ち込んでいました。さらに、ホームステイに分かれてからは試練でした。そんな私にホストマザーと英語のクラスの先生は会話に加わるように話題を振り、私のつたない英語をしっかりと聞き取ってくれました。海外の生活を直に体験して戸惑うこともありましたが、とにかく刺激的な毎日でした。この留学体験は、メンタル面や今までの学習態度など様々なことを強く深く考えさせ、私の人生において大きな経験値となりました。必死に英語を勉強して、たくさん失敗して、この1か月で3年分の挫折を経験した気分です。でも、そのおかげで何倍も強くなった気がします。この体験を忘れず、様々なことに挑戦し続け、自分自身を高めていきたいと思っています。

工学部広報委員会(平成29年度)

「かけはし」

柿本竜治、渡邊 智、横井裕之、吉川浩行、佐藤 晃、佐藤あゆみ、芦原 諒、中村能久、友田祐一

平成29年度 工学部学生の受賞

※所属と学年は受賞時のものです

【学業成績優秀者】

学長表彰	肥後 歩 機械システム工学科 4年
工学部長表彰	井上舞美 物質生命化学科 4年
	喜多川 太郎 マテリアル工学科 4年
	平野力也 社会環境工学科 4年
	野田 翼 建築学科 4年
	田川 亨 情報電気電子工学科 4年
	チョヨンミン 数理工学科 4年

【受賞者】

- 古賀裕也 【マテリアル工学科 4年】  
日本鉄鋼協会  
第173回春季講演大会学生ポスターセッション 努力賞
- 大塚聖良、吉田拓矢 【いずれもマテリアル工学科 4年】  
日本金属学会・日本鉄鋼協会奨学賞
- 祐木流音 【機械システム工学科 4年】  
精密工学会九州支部  
2017熊本地方講演会 ベストプレゼンテーション賞
- 岬 遼太 【機械システム工学科 4年】  
精密工学会九州支部 第18回学生研究発表会  
優秀ポスター発表賞 北川鉄工所賞
- 中村直斗 【機械システム工学科 4年】  
精密工学会九州支部  
第18回学生研究発表会 DMG森精機賞
- 原田寛之 【機械システム工学科 4年】  
2017 International Symposium on Novel and Sustainable Technology  
Third Prize of Poster Competition Award
- 藤門優介、坪山英樹 【いずれも機械システム工学科 4年】  
日本機械学会九州学生  
第49回学生員卒業研究発表講演会 優秀講演賞
- 川浪健太郎、鶴野亜和 【いずれも社会環境工学科 4年】  
土木学会西部支部 優秀講演賞
- 大津里香保 【社会環境工学科 4年】  
日本水環境学会 年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)
- 桑原美里 【建築学科 4年】  
2017年度日本コンクリート工学会 九州支部長賞
- 坂本磨美、荒巻 充貴弘 【いずれも建築学科 4年】  
日本建築学会設計競技「地域の素材から立ち現れる建築」  
タジマ奨励賞
- 下田玲奈、宮永健太郎 【いずれも建築学科 4年】  
第33回日本建築学会九州支部  
都市計画委員会夏季セミナー 福岡市長賞
- 村松昭典、姉川立久、工藤正則、黒木詩也、鶴田尚也  
【いずれも情報電気電子工学科 4年】  
ETロボコン2017 九州北地区大会 九州経済産業局長賞

熊本大学工学部ニュースレター No.29

かけはし

2018 April



熊本工業専門学校、  
熊本大学を併記した正門  
昭和25(1950)年



工学部創立120周年

復興と展開

— 夢それを紡ぐ絆 —



祝 熊本大学工学部創立120周年記念式典

## 世界中で活躍できる グローバルレベルの 工学者になるために

工学部長 宇佐川 毅

熊本大学工学部は、最先端研究を推進することのできる研究環境と、国際認証を受けた学部教育、そして大学院までの系統的かつ高い水準の工学教育を提供する教育環境を提供しています。平成28年4月の熊本地震は、教育研究環境にも大きな被害を与えました。講義棟や研究室・実験室の修復作業は今なお継続しており、地震被害で改築することとなった工学部1号館は、平成30年度中の完成を目指し鋭意作業が進められているところですが、今春も多くの学部生・大学院生が、熊本大学の卒業生としての誇りをもって社会に巣立っていきましました。



地震から2年という時間が経過した今、熊本大学工学部の在学諸君が、日本中の教育研究機関・企業、そして地元社会、さらには3万8千名を超える世界中で活躍する卒業生に支えられていることを、強く意識せざるを得ません。地震から2週間を待たず、国立研究所で活躍する卒業生を通じ研究継続のための学生受け入れが始まりました。例年であれば5月上旬に就職のために書類提出が求められますが、多くの企業から特段の配慮をいただきました。

この2年間に、学生たちは本当に大きく成長しました。工学者として、社会に対してどのように貢献するか、自分自身に何ができるかを、それぞれに考え、それを実現するために社会に巣立つための努力を続けてきました。ボランティアグループ「熊助組」の学生諸君は、被害の大きかった益城に今も足しげく通うのみならず、昨年の北部九州の被災地でも活動しています。さらに、厳しい環境の中でも、カナダ・アルバータ大学への4週間の語学研修への参加や、日韓台の学生がチームを組みその発想と技術力を競うデザインキャンパで韓国に1週間程度滞在、大学院生が中心となり運営する国際学会を台湾で開催、そして研究型インターシップとして欧州に長期滞在するなど、学生職員の国際的な活動の場は広がっています。

熊本大学工学部は、皆さんが急速にグローバル化する国際社会で工学者として活躍するための準備をする空間であり、一生涯の友人を作るための環境でもあります。目の前のチャンスをどのように活用するかは、みなさん一人ひとりにかかっています。自らの未来を自らの力で切り拓き、一人の大人として生きるために必要な知識、技術、そして心を、熊本大学工学部で育んでいきましょう。



写真1：解体工事中の工学部1号館



写真2：プレハブの仮設校舎



研究室公開（機械システム工学科）



研究室公開（マテリアル工学科）

## 【工学部復興状況】

### 復旧・復興への歩みを着実に進める黒髪南キャンパス ～工学部関係の建物の復旧・復興状況について～

平成28年4月に発生した熊本地震は、県内に甚大な被害をもたらしました。工学部がある黒髪南キャンパスでも、この地震により多くの建物が被災しました。工学部関係の建物の復旧・復興状況について簡単にお知らせします。

工学部関連でもっとも被害が大きかった工学部1号館は、建て替えられることとなり、平成29年12月末までに解体(写真1)されました。1号館跡地には、平成30年3月までに完成予想バース(図1)に示される新しい校舎が建設される予定です。

震災前、工学部1号館の住人であった社会環境工学科、建築学科の教職員・研究室の学生、および自然科学系事務職員は、地震後、バラバラに避難し、研究や業務に従事していましたが、昨年3月にプレハブの仮設校舎(写真2)に引越しました。学生・教職員みな元気に活動していますが、新校舎の完成を待ちわびる日々を過ごしています。

また、平成28年熊本地震に耐えた歴史あるレンガ造りの工学部研究資料館(旧機械工場)には、現在、倒壊を防ぐための仮設鉄骨補強(写真3)が施されています。今後2021年12月まで時間を掛けて災害復旧及び耐震補強工事が実施される予定です。その他の工学部関係の建物については、平成30年3月までに、災害復旧工事は一応終了する予定です。

熊本地震の際は、皆さまに、ご心配をお掛けし、また、多大なご支援をいただき大変感謝しております。工学部は、復旧・復興に向けて歩みを着実に進めています。今後も熊本大学工学部の応援をよろしくお願いします。



社会環境工学科  
楠本 竜治 教授



写真3：仮設鉄骨補強された工学部研究資料館



図1：工学部1号館完成予想バース

## 【工学部オープンキャンパス】

### 在学生たちも工学部の魅力を伝えるために奮闘!

平成29年度のオープンキャンパスは、8月5日(土)に開催されました。工学部では、平成28年4月の2度の大きな地震のために、以前駐車場として使用していた場所に現在仮設校舎が設けられています。このため団体でオープンキャンパスに参加される方が利用されるバスの入場制限を行なったため、オープンキャンパスへの参加者の減少が心配されましたが、震災前と同じく約2,000名程度の高校生や保護者の方々に来場して頂きました。

当日は、暑い一日となりましたが、朝の工学部長の挨拶に始まり、午前と午後それぞれ学科説明会、研究室公開と質問コーナーなど盛りだくさんの企画に、学生や保護者の方々が熱心に参加していました。研究室公開では、61もの研究テーマが公開され、教員や在学生たちは日頃の研究成果を分かり易く説明するために奮闘していました。高校生はそれらの説明に聞き入り、活発な質疑を行っていました。また、理系分野への女性の活躍を期待して女子高生のための進路相談会も同時に開催し、多くの女子学生に来場して頂きました。

オープンキャンパスに参加頂いた皆さまに行なったアンケート結果でも、7割以上の方に進学意欲が高まったと回答して頂きました。今後も高校生や保護者の方々に工学部の魅力が伝わるようにオープンキャンパスの充実を図っていきたく考えています。



平成29年度工学部  
入試実施委員会委員長  
藤吉 孝則 教授



研究室公開（建築学科）



女子高生のための進路相談会の様子

## 工学部創立120周年 記念イベントが開催されました！

熊本地震から1年以上経過してなお、震災の爪痕が色濃く残る中  
熊本大学工学部が力強く復興し従来にも増して発展する姿を示すべく

「復興と展開 ~夢 それを紡ぐ絆~」のキャッチコピーを掲げ  
平成29年11月4日、創立120周年記念イベントを開催しました。



工学部創立120周年記念事業  
副実行委員長  
國武 雅司 教授



上/大正期の機械実験工場  
大正10年機械工学科卒業  
アルバムより



右/熊本高等工業学校本館  
明治41年に竣工した木造の本館



熊本大学工学部は、明治30年第五高等学校の土木工学科、機械工学科2学科の発足から数えて、昨年(平成29年)11月に創立120周年を迎えました。これまで創立65周年、80周年、90周年、100周年と節目ごとに、大きな目標を掲げた記念事業を立ち上げ、卒業生の皆様のご支援の元、工学部の強化を図ってきました。創立100周年時には、「工学部を卓越した研究拠点とし、研究大学を目指す」をスローガンとして記念事業を行いました。この目標はパルスパワー科学研究所、先進マグネシウム国際研究センター、くまもと水循環・減災研究教育センターの設立など、この20年で着実に実現されています。その際の基金で建てられた工学部100周年記念館は、国際学会などの会場として全学で利用され、熊大の顔となっています。

平成29年11月4日、工学部キャンパスにおいて工学部主催の工学部創立120周年記念イベント(記念式典、記念講演会、学科イベント、記念祝賀会)が開催されました。工学部の同窓組織である工業会のご支援の元、卒業生を中心に、総勢で600名(祝賀会参加者約500名)を超える方にお集まりいただきました。準備を進める中、熊本地震に遭遇し、開催を躊躇する声もありましたが、「夢 それを紡ぐ絆—グローバル展開力の育成と強化—」としていたキャッチコピーを、工学部が力強く復興し従来にも増して発展する姿を示すべく「復興と展開 ~夢 それを紡ぐ絆~」

と変え、予定通り開催しました。

震災で立入禁止になった1号館は立て直しのため取り壊され、代わりに駐車場であった場所にはプレハブ校舎が建ち、赤レンガの工学部研究資料館(旧機械実験工場)は、倒壊の危険性があるため頑丈な鉄骨の檣で取り囲まれているという震災の爪痕が色濃く残る中での開催となりました。1年以上経過してなお被害の大きさに改めて驚かれた方も多かったと思います。それでも桂英昭准教授の指導の元、建築学科の学生さんによって準備されたキャンパス全体で統一感のある飾り付けによって、晴れやかなムードの中で開催することができました。

道路を挟んだキャンパスで紫祭祭(学園祭)が行われている中、原田信志学長や国内外の要人をお迎えし、記念式典から賑々しくスタートしました。工学部の卒業生(学生表彰受賞者)であるエーゲ大学(トルコ)のナランカイバ教授を始めとして、工学部に縁の方々から国外からも駆けつけてくださいました。国際招聘ゲストの方々には、式典当日の前後に、学生向けの講演会、茶話会などにもご参加いただき、今後につながる国際交流ができました。

記念講演会では、工学部の前身、熊本高等工業学校初代校長中原淳蔵先生について、岩井善太名誉教授からご講演いただきました。中原先生は近代日本の工学教育研究のパイオニアであり、工学部の長い歴史を振り返る機会とな

りました。次に宇佐川毅工学部長、熊助組副代表の山本菜月さん、山尾敏孝名誉教授、そして藤見俊夫准教授(くまもと水循環・減災研究教育センター)から、熊本地震の被害と復興に関する報告がなされました。震災時と復興に関して、熊大とりわけ工学部やその学生さんの取り組みが大変高く評価されています。熊助組(学生を中心とした災害復旧支援団体)や、被災した町民とまちづくりの専門家や学生たちが自由に語り合える場として被害が集中した益城町に設置された「ましきラボ」などの取り組みが紹介されました。講演会の後には、学科ごとに講演会や見学会も行われ研究、教育面で大きく発展する姿が紹介されました。

チアリーディング部の華麗な演技からスタートした祝賀会は、旧交を確かめ合う人々で大変な盛況となりました。楽しい時間は瞬く間に過ぎ去り、お開きの時間がすぐに来てしまいました。工学部応援団が一糸乱れぬ演技を見せてくれた後、OB代表の八明輝修さんと井上優一さんが、魂の込められた巻頭言を伝統のスタイルで披露され、参加者一同、工学部の熱き伝統と団結力を改めて再確認できました。最後に、学生代表による万歳三唱で盛り上がった勢いのまま、皆さん二次会へと熊本の夜に消えていかれました。今回のイベントをきっかけとして、学科、研究室、部活など、様々な同窓の集まりが開かれ、卒業生同士の絆をこれまで以上に強める良い機会になりました。

熊本大学工学部の年表 (熊本高等工業学校 熊本大学工学部研究資料館図録「年表」より一部抜粋)

- 明治20(1887)年 4月 第五高等学校を設置、1894(明治27)年第五高等学校と改称
- 明治30(1897)年 4月 第五高等学校工学部を設置
- 明治39(1906)年 4月 第五高等学校工学部が独立、熊本高等工業学校となる
- 昭和13(1938)年 4月 高等工業創立30周年記念「熊本高等工業学校沿革史」発行
- 昭和19(1944)年 4月 熊本高等工業学校を熊本工業専門学校と改称、電気通信科、第2機械科を増設
- 昭和24(1949)年 5月 熊本大学を設置、熊本大学工学部は土木建築工学科、採鉱冶金学科、機械工学科、電気工学科、工業化学科の5学科が発足
- 昭和25(1950)年 3月 第五高等学校閉校
- 昭和26(1951)年 3月 熊本工業専門学校、同附設工業教員養成所を廃止
- 昭和52(1977)年 11月 工学部創立80周年記念事業により、旧機械実験工場を改修し工学部研究資料館として開館
- 平成6(1994)年 12月 工学部研究資料館が国の重要文化財に指定
- 平成9(1997)年 11月 工学部創立百周年記念事業
- 平成16(2004)年 2月 工学部百周年記念館が完成
- 平成29(2017)年 11月 工学部創立120周年記念事業

【学科便り】

情報電気電子工学科



平成29年度  
情報電気電子工学科長  
有次 正義 教授

情報電気電子工学科は、  
情報電気工学科へ生まれ変わります

平成30年4月に工学部は改組します。情報電気電子工学科は、情報電気工学科として新たに歩みだします。新学科の特徴は、専門色の強い卒業生を社会へ輩出するとともに、大学院教育へのスムーズな接続により学部・大学院の6年一貫教育を可能とするところです。

これまでの情報電気電子工学科では、ハードウェアからソフトウェア、エネルギー、通信など、情報・電気・電子のほぼ全分野を広く学べる総合学科として、4年間一学科で三つの分野が共同して教育にあたってきました。これにより、三つの分野に関して広く学びつつ、将来を見据えて専門性を深めることができる学生を輩出してきました。しかしその一方で、三つの分野のどれかに確固たる自信を持った強みをしっかり確立できないまま卒業してしまいうケースも少なからず見受けられました。新しい情報電気工学科では、1年次に

学部共通の工学基礎科目と専門分野からの学科基礎科目群の学修を通して、情報電気電子分野に共通的な知識や技術を習得しながら、自らの興味・関心の方向と専門分野を見出してもらい、2年次で一つの分野を選択して学ぶプログラム構成としました。これにより、情報、電気、電子のどれかの色にしっかり染まった卒業生を輩出し、それにより社会に貢献したりさらなる深化のために大学院に進学したりすることを期待しています。ただし、興味・関心の変化に対応してプログラム間を移動する可能性も残して、多様なニーズにもこたえられるようにしています。

情報電気電子工学科の良いところはそのまま引き継ぎながら、新しく生まれ変わる情報電気工学科を、今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



1年次合宿研修での  
西田鉄鋼株式会社訪問の様子

社会環境工学科

熊本地震を経てレジリエント社会の実現を目指す  
「土木建築学科」へと飛躍します

一昨年の地震以降、多大なるご支援をいただき心よりお礼申し上げます。平成29年度は75名の卒業生が震災後の苦境を乗り越え元気に巣立ちました。日本各地で発生する“これまでに経験したことがないような自然災害”からの復旧と復興、東京五輪に向けた施設や交通網の整備、さらに老朽化した社会基盤施設の再整備などの事業が活発で多くの人材が必要とされています。そのため今年度も求人は活況で、学生の就職状況は極めて良好です。そして、4月には73名の新入学生を迎え、大学院修士生まで合わせ391名の学生が21名の教員とともに持続可能な社会構築のための学習と研究に励んでいるところです。

一方、地震を経て“安全・安心・快適な暮らし”を取り戻すための気運が高まりました。10年前に当学科の学生が中心となり結団した熊本大学学生災害復旧

支援団体《熊助組》のボランティア活動はまさに別格の働きです。また当学科の教員と学生が被災地・益城町に開所したサテライトラボ《ましきラボ》では、復興の現場で、地域の住民の方々との対話を重ねながら、地域の将来像を描く支援を行っています。

さらに熊本が世界に誇る水資源を核とした研究集団《熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター》には7名の当学科教員が参画。地下水循環、減災型社会システム、地域デザインといった領域での活躍が期待されています。そして当学科も平成30年度より“社会環境工学”から“土木”に回帰し、源流を同じくする建築学科と合わせて《土木建築学科》となり、レジリエントで持続可能な社会を実現するための研究教育をより一層充実して参ります。皆様の変わらぬご支援を何卒宜しくお願い致します。



平成29年度  
社会環境工学科長  
重石光弘 教授



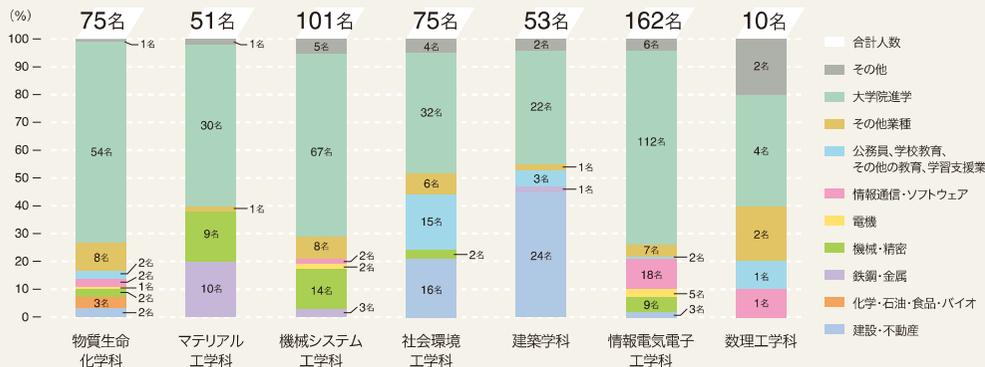
熊助組の働き



ましきラボ

【進学・就職情報】

平成28年度 卒業生進学・就職状況



就職連絡会便り

売り手市場の就職活動 誰のための就職活動？

3月1日の会社説明会解禁、6月1日の採用活動解禁という就職協定になって2年目となった平成28年4月入社の就職活動はロケットスタートが始まりました。学生はとらずに県内外で開催される合同企業説明会に参加し、企業は各学科の就職担当教員をまわり、探る側、採られる側の側面が交錯しているところに、それを、民間の就職支援会社や自治体、学内等の就職支援部署がさらに情報を注ぎ込むという状態。当初はどう動いていいかわからない学生も、次第に自分の就きたい仕事が見え始め、深く就職活動に取り組んでいきますが、それでも、膨大な情報を取捨選択していく過程で、一般に知られていないB to B企業や地方の中小企業がその選択肢から落ちていき、名の知れた大きな企業に学生が集まるという状況が生まれました。もちろん、どの企業も計画した学生数を早く確保するために、次々に内定を出し、ふたを開けると、予定数を超える学生を採用してしまうような企業と、全くそれに達しない企業に明暗が分かれる状況だったという報道もありました。特に地方の多くの中小企業は苦しい状況だったようです。地方創生が政府主導で推進されていますが、地方にも、なかなか表には出ないけれど、世界レベルで素晴らしい事業を進めている企業はたくさんあります。それを見つける学生自身の力も必要と思いますが、私達教員や自治体、また、地方の企業が上手に情報提供することも大切だとも感じました。いづれにせよ、学生が自分の思い描く職に就き、就職後もその企業で高いモチベーションを維持しながら活躍できる、そういった企業との出会いをサポートするんだということを忘れずに私達教員は活動が続けていきたいと思います。



平成29年度  
工学部就職連絡会委員長  
新留 琢郎 教授